

病害虫発生予察特殊報 第4号

病 名 カーネーションうどんこ病(仮称)

病原菌名 *Oidium dianthi*

1 発生経過

平成 14 年 6 月、中信地区のカーネーションで、茎葉や蕾が白い粉状のものに覆われ、商品価値を著しく低下させる障害が発生した。その症状からうどんこ病と考えられたので、独立行政法人花き研究所に診断を依頼したところ、*Oidium dianthi* によるカーネーションうどんこ病(仮称)と診断された。本病は宮城県、高知県で発生の報告があるが、本県で発生を確認したのは今回が初めてである。

2 病徴と診断、発生生態

茎葉及び蕾、萼部分に発生する。病斑は典型的なうどんこ病の病徴を示すので、診断は容易である。開花した花卉に発生は認められない。

本県及び他県の発生状況から、本病はスプレータイプの品種に発生しやすい傾向が認められている。また、花き研究所が行ったナデシコ科植物への接種試験によると、本菌はセキチク、ビジョナデシコ、キバナナデシコに病原性を示したが、シュッコンカスミソウには示さなかった。

3 防除対策

- (1) 下位の多発葉はなるべく除去し、株間の通風をよくする。
- (2) 本病が発生した施設ではカーネーションを連作しないのが望ましいが、やむを得ず連作する場合はスプレータイプの品種を避ける。
- (3) 発病残さは施設内に放置せず、施設外に運び出し土中に埋める等適切に処分する

カーネーションうどんこ病写真



写真 1, 2 葉の病徴

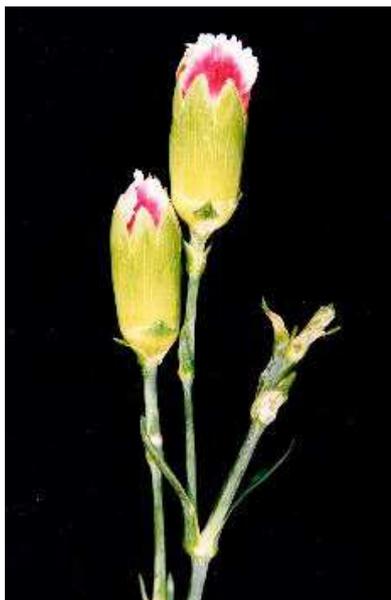


写真3, 4 蕾の病徴

写真5 菌糸

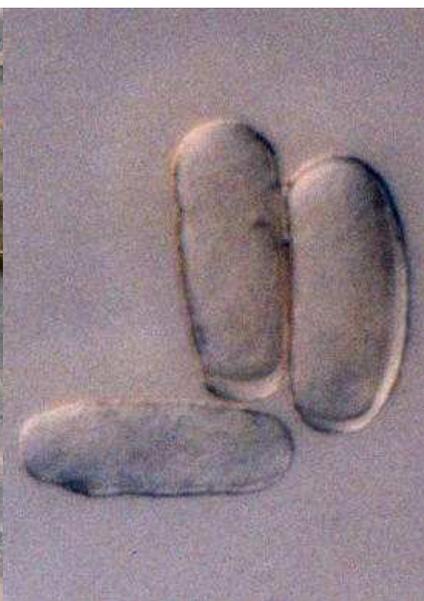


写真6 分生子柄

写真7 分生子

写真1・3：長野県病虫害防除所撮影

写真2・4：宮城県園芸研究所提供

写真5～7：独立行政法人 花き研究所提供